

株式会社 FRONTEO 第 22 回定時株主総会 質疑応答内容

※本質疑応答は、当社が株主総会で行った事業に関わるご説明を、ご出席いただいた株主様以外にも広く開示する目的で掲載するものです。質疑応答の内容につきましては、適宜整理分類の上要約しております。

【KIBIT の競争優位性について】

質問：KIBIT は御社の中心的な AI 製品であり、現在話題となっている生成 AI とは異なるアプローチであると理解しています。ただし、AI 開発には資金力が大きく影響すると考えており、欧米や中国の企業が資金力を背景に開発を進めています。将来的に同様のアプローチを取る企業が増える可能性がある中で、御社がどのように競争優位性を保っていくのかを伺いたい。

回答（議長）：AI やイノベーションの創出には、必ずしも人数や資金力が直接関係するとは限らず、1 人の天才によっても革新は起こり得ると考えています。KIBIT のアプローチは非常に特殊であり、現時点では容易に模倣されるものではありません。

また、我々は AI 技術の差別化だけでなく、例えば、創薬などの実用的なパッケージとして組み込むことにより社会実装を進めています。AI が優れていても、実際の現場で成果を出すには、ユーザーと AI の間に存在するギャップを埋める必要があります、これには時間と専門性が求められます。当社は社会実装を通じて差別化を図り、その過程で資金力や人材の強化をしていきたいと考えています。

補足説明（豊柴取締役）：創薬の領域において KIBIT は、文献に記載されていないが、大量の文献を読むことで疾患と標的分子の関連性を発見する技術です。生成 AI は連続的な予測に優れている一方で、創薬などの分野ではブレイクスルーが求められます。

KIBIT は、文献に現れない関係性を発見する「ディスカバリー」に特化しており、仮説生成においても、情報系の知識だけではなく、製薬会社で 20 年以上研究を続けてきた専門家と共同でアルゴリズムを開発しています。これにより技術的優位性と高い参入障壁を確保しています。

【認知機能 AI 医療機器の民生品について】

質問：ロードマップによると、認知機能 AI 医療機器の民生品が今年リリース予定となっているが、進捗状況について説明して欲しい。

回答：認知機能 AI 医療機器の民生品の開発は順調に進行しており、発表可能なタイミングで正式に公表する予定です。

以上